

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)



○概況

- ◆ 政策金利据置き、政策金利を「少なくとも2019年末まで」据え置くことを確認
- ◆ 新たな資金供給策としてTLTRO-Ⅲを9月から導入すると発表
- ◆ GDP成長率、消費者物価の見通しを大幅に下方修正

✓ 3月7日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**政策金利を据え置き**、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。

✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）を修正し、現在の政策金利を「**少なくとも2019年末まで**」（これまでは「2019年夏まで」）**据置く**とした。また満期を迎えた債券の償還金に関して、政策金利引き上げ後も長期間にわたり再投資を続けることを確認した。

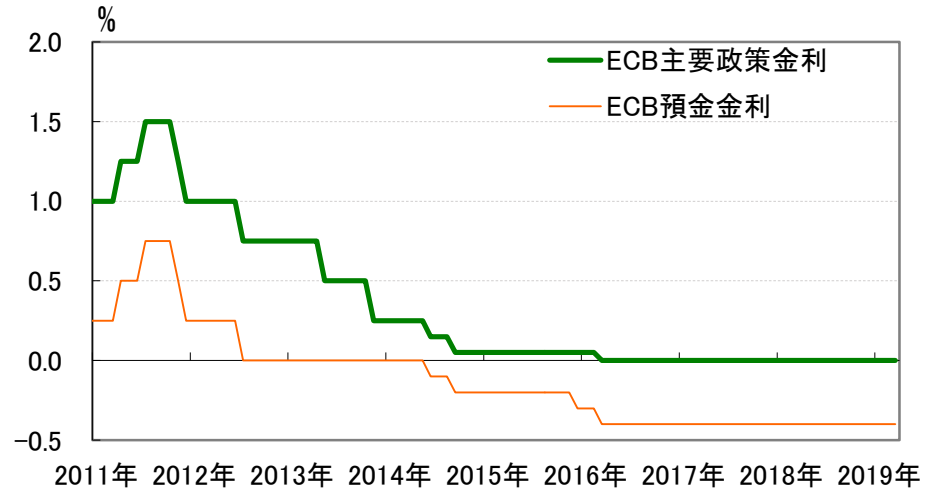
✓ 新たな資金供給策として、2019年9月から2021年3月まで四半期ごとに2年満期の資金供給を行うTLTRO-Ⅲ（銀行への資金供給を通じて融資環境を整える）の導入を発表した。

✓ ECBスタッフ見通しでは、12月時点と比較し**実質GDP成長率、消費者物価の見通しが大幅に下方修正**された（右下表参照）。

✓ ドラギ総裁は記者会見にて、ユーロ圏を取り巻くリスクについて地政学的要因、保護主義の脅威、新興国市場の脆弱性を挙げ、経済成長に対するリスクは下振れ傾向にあるとした。経済成長ペースとインフレ率の減速を指摘し、依然として十分な金融緩和が必要とした。

✓ フォワードガイダンス修正によって利上げは来年以降に持ち越し。TLTRO-Ⅲの導入は公表時期の見通しが分かれるなかで今回の公表となった。ECBスタッフによる経済見通しが前回から大幅に下げられたことはサプライズで、**ユーロ売り**と**欧州金利の低下を誘った**。2020年以降の利上げ見通しについては経済情勢に依拠するため、ユーロ圏経済指標から景気反転のタイミングを引き続き注視する。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2019年	2020年	2021年
実質GDP成長率	+1.1	+1.6	+1.5
12月時点の見通し	+1.7	+1.7	+1.5
HICP(消費者物価)	+1.2	+1.5	+1.6
12月時点の見通し	+1.6	+1.7	+1.8

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。